

< N P O法人等の非農家等との連携を実施している事例 >

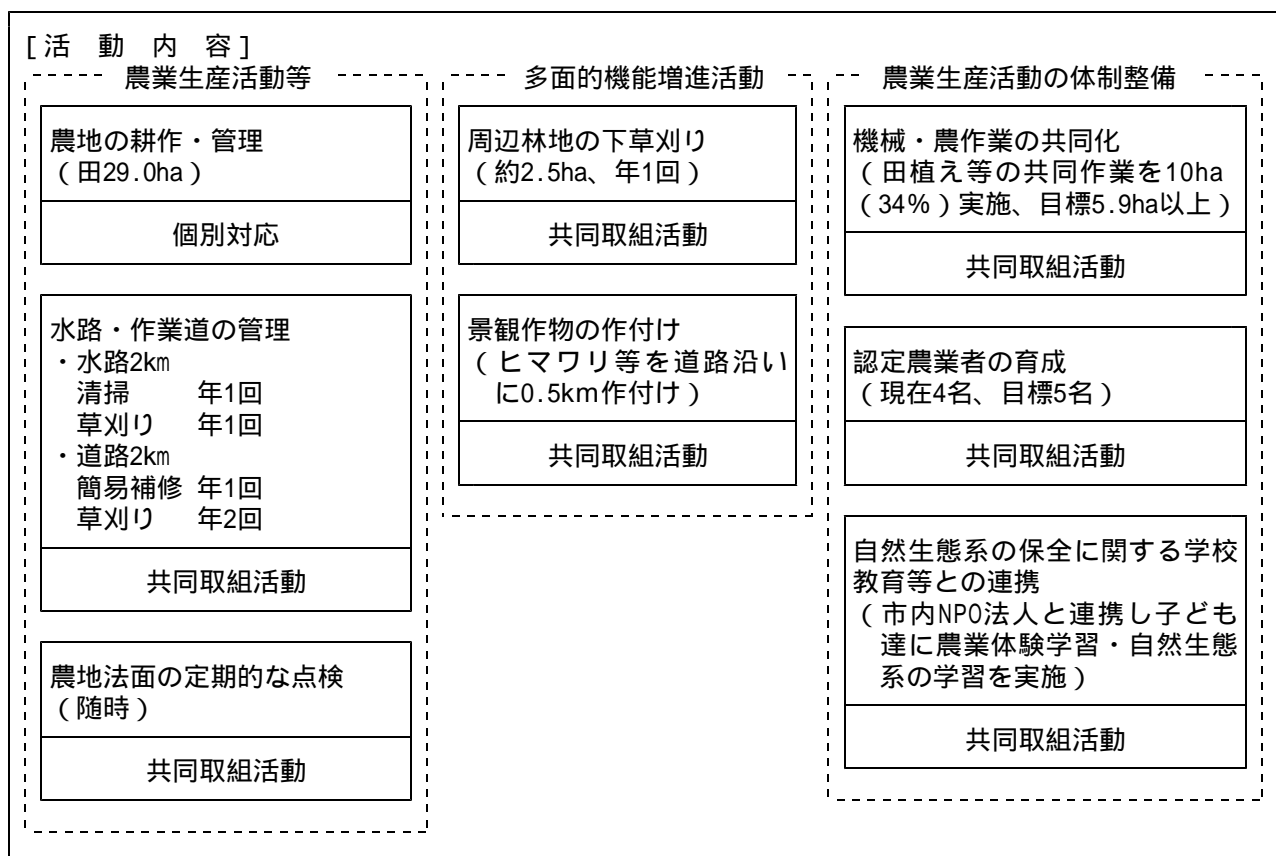
N P Oの協定参加で集落外にも啓蒙を図る

1. 集落協定の概要

| | | | | | |
|----------------|--|---------------------------|----|-------|-----|
| 市町村・協定名 | 秋田県湯沢市 <small>ゆざわし</small> 三ツ村 <small>みつむら</small> | | | | |
| 協定面積 29.0ha | 田(100%) 水稻、転作作物 | 畑 | 草地 | 採草放牧地 | |
| 交付金額 250万円 | 個人配分 | | | 48% | |
| | 共同取組活動 (52%) | 集落担当者活動経費 | | | 5% |
| | | 集落マスタープランの将来像を実現するための活動経費 | | | 8% |
| | | 鳥獣害防止対策、水路農道等維持・管理等共同取組経費 | | | 20% |
| | | 農用地の維持・管理活動経費 | | | 6% |
| | | 交付金の積立・繰越 | | | 12% |
| 事務費 | | | 1% | | |
| 協定参加者 | 農業者 37人 NPO法人1組織 | | | | |

2. 集落マスタープランの概要

湯沢市南部、旧雄勝町に位置する当集落は、雄物川の支流である高松川沿いの比較的平坦な農地と山間に入り組んだ急峻な農地を併せ持つ地形の変化に富んだ集落である。集落の将来像として 水稻の有機栽培をはじめとした農作物の作付拡大、生産基盤改善の一環として水路、農道等の補修・整備、 N P O法人との連携による農業・自然への理解拡大、 地元伝統行事の継承による集落の活性化などに取り組むこととした。



3. 取組の経緯及び内容

農地を所有・耕作する農家は、比較的小規模であり、農業従事者の高齢化や後継者不足は深刻な状況であり、地域の活性化は急務だった。集落協定を結び、制度を活用するにあたっては、協定を構成する農家以外の組織と連携し、地域農業の持つ意味・意義を啓蒙することとした。これに賛同した湯沢市のNPO法人「秋田県南パソコン支援ネット」が集落協定に参加し、農作業の体験、フィールドワークによる自然生態系の学習、集落周辺での山菜採りなどを実施していくこととしている。

また、現在4名の認定農業者も1名増やし、農業生産活動等を維持していく。

農用地等保全マップ



川沿いの比較的平坦な農地と、沢部に深く入り込んだ農地が混在していることが確認できる。

農道、水路の補修（予定）箇所が明瞭に記載されている。



農作業の意義と手順を説明



田植え体験による農業体験

[平成19年度までの主な効果]

共同作業で田植えなど農作業の効率化（当初3ha、目標5.9ha以上、H19実績10ha）

認定農業者の育成のため、集落全体で話し合いなどにより候補者を選定（当初4名、目標5名以上）

NPO法人「秋田県南パソコン支援ネット」と連携した環境保全活動等を通じた地域の活性化

・農作業体験ツアー（地域住民・小学生等（12名）参加）

・地元小学校児童（8名）とともに山菜取りやホタルなどを観察する自然生態系学習を20年度以降に計画している。

水路・農道の整備

・農道の敷砂利による補修整備（当初200m、目標500m、H19実績500m）

・コンクリート舗装による補修100m及び水路の補修整備（側溝整備40m）

所得向上に向けたいちご、タラの芽の作付面積拡大（当初0.5ha、目標1ha、H19実績1ha）

「花いっぱい運動」（景観作物の作付）による景観保全（当初0km、目標0.5km、H19実績0.5km）